

現代の直接金融において、社債の発行は、株式発行とともに企業金融の一端を担う重要な資金調達手段である。しかし日本の社債市場にはいくつかの課題が存在する。永らく、例えば発行市場の規模が国際的にみても小さいこと、また流動性が低いこと等、市場が活発に利用されていない現状が指摘されてきた。一方でリーマン・ショック等昨今一連の世界的な金融危機から、企業金融における多様な資金調達手段の確保と活用の重要性は高まっている。

こうした流れを受けて、平成 21 年 7 月には日本証券業協会に「社債市場の活性化に関する懇談会」が設けられ、わが国の社債市場をめぐる様々な課題への議論が行われてきた。その結果、平成 24 年 7 月には社債市場活性化に向けた具体的な取り組みがいくつか提示された。しかしこうした取り組みは緒についたばかりであり、いまだ市場に大きな変化は見られてはいない。

そこで本研究では、わが国の社債市場活性化に向けてさらなる示唆を得るべく、社債市場が発達している米国を対象として分析を行う。中でも、米国の多様な企業の資金調達を支えているハイ・イールド債市場に注目したい。

一般的に信用格付けが BB 格以下の社債を指すハイ・イールド債は、米国においては様々な企業の資金調達手段として積極的に利用されている。ハイ・イールド債市場が活発であるならば、経済情勢に比較的影響を受けやすい企業においても安定的な資金調達の 1 つの選択肢として、これを活用することが可能である。しかしわが国において、ハイ・イールド債はいまだほとんど発行されておらず、市場が成立していない状況にある。

こうした現状から本研究では、米国ハイ・イールド債市場の発行市場の構造、特に発行企業の財務や信用状態について分析を行う。米国ハイ・イールド債市場を構成する企業の属性について明らかにし、比較分析を行うことにより、日本市場にハイ・イールド債市場を形成する可能性、またその場合の課題等、市場の活性化に向けた示唆を得たい。